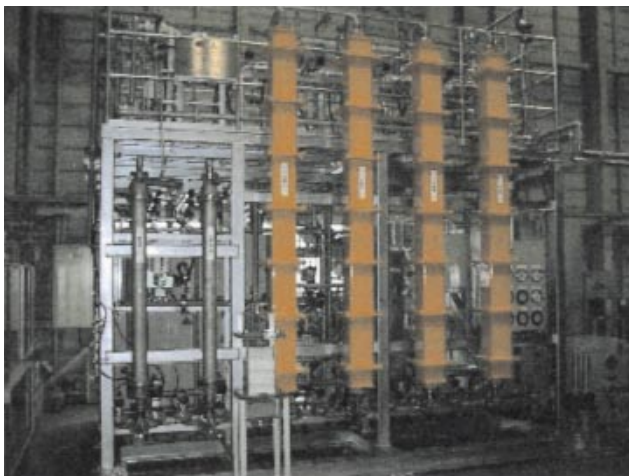


さらに13年度中には、火力発電所脱硝触媒の性能評価試験を行えるようにする計画です。

3 当面の研究内容

今後、下記の試験研究などを実施する計画です。

- ・CO₂回収システムにおける吸着材改善に関する研究
吸着分離技術の鍵である吸着材の性能改善を検討します。
- ・石炭灰の新規用途開発に関する研究
炭種や排ガス温度が石炭灰の性状に与える影響について検討し、新規用途開発に資する基礎データを取得していきます。



第4図 CO₂分離回収試験装置

<設備仕様>

- (1)設備名称 石炭燃焼排ガス処理試験設備
- (2)設置場所 技術開発本部
エネルギー・環境実験棟内
- (3)設備構成
 - ア 石炭燃焼排ガス発生装置
燃 焼 炉：円筒型炉
(内径 360D × 4,000L)
石炭燃焼量：最大 10kg/h
排ガス発生量：最大 100m³N/h
排 煙 処 理：排ガス洗浄装置、
バグフィルタ式
 - イ CO₂分離回収試験装置
原 理：圧力スイング吸着法
(Pressure swing adsorption法)
処 理 ガ ス 量：10m³N/h
回 収 性 能：回収ガスCO₂濃度60%



執筆者／森 義人
Mori.Yoshinori@chuden.co.jp

東三河開発懇話会例会で「燃料電池開発の現状」を講演 電力技術研究所

3月21日(水)豊橋グランドホテルで東三河開発懇話会(会長：中部ガス会長 神野信郎)主催の産学官交流サロン例会があり、電力技術研究所燃料電池Tの菰田主任が「燃料電池開発の現状」と題して講演を行った。

本懇話会は、東三河財界と官庁が豊橋技術科学大学開学時に交流を深めるために発足したものである。講演には、技術開発ニュース89号(燃料電池特集)等を説明資料として用いた。質疑応答の時間はなかったが出席者の関心は高く、講演の後10名程の方が挨拶

や質問に来られた。特に、川越でのMCFC国プロ試験について、会として見学したい旨の依頼があり、時機をみてご案内することとした。

